

SOE - 2008春

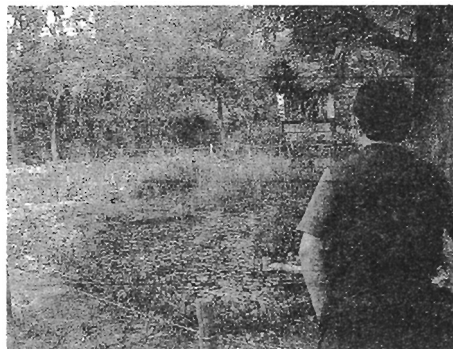


学校ビオトープつれづれ散歩

5月は生き物たちが“命の息づかい”をより大きくし始める季節である。

夏本番にそなえ、呼吸を整え・・・まるでスタート直前のランナーのようだ。

学校ビオトープを足掛かりに立ち上がったNPO「センスオブアース：SOE」は正式な取材のほかにも不定期に区内のビオトープ観察を実施している。まあ、観察というほど大それたものではなく、その季節に息吹く生命たちの呼吸を感じて一言一憂……という程度のものだ。



今回のスタートは蓮根第二小学校のビオトープ

今回は板橋区内のビオトープ5か所に足を運んでみた。



これがその水生植物、他のビオトープでも見つけた

まずはSOEのホームグラウンド的な場所、蓮根第二小のビオトープ。

年に30回近く訪れる場所だけになじみは深い。面白いのは池に繁茂する水生植物の“主力部隊”が年によって替わること。フトイが幅を利かせていた年もあれば、ヘラオモダカがやけに増える年もある。

今年、池の西側から新たに台頭してきた植物があるのだが、まだ名前がわからない。この法則は一体なんなのだろう？

ここの維持管理をする保護者のグループ会長がこの日もいらしていた。

「池の中にフナが増え始めていて、生態系のバランスが崩れそうなんです」

と、学校の子供たちにつくらせた“仕掛け”（フナを捕獲するための）を見せてくれた。



次に回ったのは三園小のビオトープ。区内の学校ビオトープ（小学校）の中でも屈指の敷地面積を持つ、ゆったりとした場所だ。

この池にもアズマヒキガエルのオタマジャクシたちがきゅるきゅると泳ぎ回っていた。

以前この学校からは絶滅危惧種に指定されている植物「田字草」をいただいた経緯がある。

その子孫たちはまだ蓮二小に健在だ。

趣のある竹林があり、タケノコがむっくり頭をもたげていた(もう硬くて食べられないか……)。ムクロジの実(羽子板の羽の頭に使われる黒い実)もそのあたりに散らばっている。(よしよし!)



三園小のビオトープは池だけでなく林や草地などがあり、多様な生き物が観察できる



赤塚美術館脇にあるビオトープは板橋区からの委託で《水と緑の会》が管理している場所。

崖の稜線際にあり、湧水を使用しているのがうらやましい。太陽の熱で温まった石の上で猫が昼寝をしていた。なんともどかな風景である。

池の中には……おお!メダカの群れが……ありや、ザリガニだ!……うわ、金魚もいる……バシャッ! 鯉がはねた……。

土地の人に聞くと、すぐそばにある釣り堀で釣った鯉などをここに放して帰る人がいるらしい。生態系を維持するために、《水と緑の会》でも定期的な管理をしているというが、イタチゴッコが続いているようだ。

高三小のビオトープは、この日校庭開放をしていなかったため、外から覗いただけで高六小に向かった。

板橋区で第1号の学校ビオトープがここ。最初に作られた池はシートに穴があき、水が涸れ、今では草原になっていた。数年後のテコ入れで新たに造られた池には、メダカやオタマジャクシが泳いでいたが、生きものの量と周囲の植物群が少ないのが心配である。

この日たまたま中島貴志子副校長先生にビオトープでお会いし、環境づくりについての今後の熱い構想をうかがう事ができた。この学校の活動にも、今後注目していきたい。



このビオトープ循環ポンプを使った《せせらぎ》があり、他とは違った生き物を観察できるだろう。



新しい池には水生植物も茂っている。

センスオブアースに参加させていただいて感じるのにはスタッフの皆さんが本当に温かいということ。環境教育を通して、食の大切さだけではなく人のつながりの大切さを感じます。このような活動を通して子どもに食の大切さ、人と人とのつながりの大切さを伝えていけたらなと思います。

次回の話し合いでも子ども達が楽しく環境について学んでいけるようにスタッフの方々と一緒に考えていきたいと思っています。



寺田家のお花見会で。
今回参加した学生スタッフと。

● S.O.E. 活動報告 (2008年4月)

日	曜	内 容
3	木	SOE理事長 寺田 大学院修士課程入学 環境マネージメント専攻。早速各専門家より教授が始まった。とりえず環境法・NPO論・環境経営事例研究・自治体政策研究・地域環境事例・環境社会論など。
4	金	板橋区研究奨励校板橋第七小との打ち合わせ
12	土	日本女子大学人間社会学部教育学科1年のうち84名へ教職基礎論の授業開始(環境教育も)
20	日	センスオブアース4月号発行作業 2300部発送
22	火	学校ほど愉快なところはない-ビोटープ作りの夢の実現について、第一法規出版より3時間取材を受けた。
25	金	数校の学校と、フードマイレージ・ヤゴ救出作戦の授業等について打ち合わせ。
27	日	フードマイレージ(食べものが口に入るまでのエネルギー消費量、CO2の排出)について自分たちで実感できる小学生のプログラム作成・リハーサルを行った。
29	火	学校・地域のビोटープ観察・見学-生きものの生息状況や植物群の植生の様子を見て回った。よく管理育成されているところでは、生きものが豊かで、外来生物が入っていないが、踏み荒らされたりすると、植生も乏しく、生きものもいなくなるがよく見えた。(今月号記事参照)

● S.O.E. 活動予定 (2008年5月)

1	木	桜川小学校プール生きもの調査。学校長との打ち合わせ。
8	木	日本女子大学人間社会学部の学生による自然探偵団主催 自然観察会、13:15～。 今年度より、実績が認められ、学内の正式なサークルとして認可された。これまで、SOEは4年前から、学生たちを支援している。
11	日	センスオブアース5月号ニュース発行作業日 2400部発送予定
12	月	区内小学校プール生きもの調査(13日も予定)
16	金	ヤゴ救出作戦事前研修会(主催エコポリスセンター) 14:00～16:00 SOEも参加
17	土	ヤゴ救出作戦事前研修会(主催エコポリスセンター) 10:00～12:00 / 14:00～16:00 SOEも参加 16～17日のヤゴ救出作戦事前研修会はどなたでも参加できます。申し込み先 5970-5001 エコポリスセンターまで
18	日	SOEと学生のワークショップ-フードマイレージ授業づくり。1～5於エコポリ
31	土	日本女子大学人間社会学部教育学科1年教職基礎論授業-環境教育の実践 「学校ほど愉快なところはない」板橋区立蓮根第二小学校の取り組み<寺田>

今年も開催します!! センスオブアースの

第5回 沖縄・備瀬～ちゅら海 エコツアー

センスオブアースのもうひとつの拠点沖縄。恒例のエコツアーも今回で5回目。沖縄の人たちとの交流、海岸のゴミ拾い、一昨年からはじめたサンゴの成長観察など、センスオブアースならではのエコツアーです。詳細は次号でもお知らせしますが、今月より受付しております。メールまたはお電話で。

ツアー概要:《日程》9月初旬の4日間(3泊4日)《予算》約7～8万円(全食事付)

《定員》14名・先着順 《お申込・お問合せ》お名前・住所・年齢・性別・電話番号
をご記入の上 FAX・メールで fax: 03-3960-6053 mail: info@npo-soe.jp

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6053
e-mail: info@npo-soe.jp url: www.npo-soe.jp